

10月2日の会見後、マスメディアへの福島第一原発敷地内への取材拒否について東京電力栗田隆史広報部長に個人的に伺ったところ、大人数取材陣が殺到すると作業通行に支障が出るとおっしゃられました。また、抽選で順番を決めて少人数ずつ取材させてはどうかと伺いましたが、それは不公平になるとおっしゃられました。

免震棟内の通路の大きさは今後も変わらないので、その理屈ではいつまでたってもメディアは入れないと思います。しかしたえ順番的に不公平であっても敷地内取材を希望するメディア関係者全員が抽選に了解すれば取材は可能ではないか。

次のような取材受け入れのプランを考えました。

●各社2人ずつとして計6人を東電社員の方3人が付き添って2時間だけ案内する。
これなら一日3回で9社18人、3日で27社54人が取材できる計算になる

●ただし2時間のうち20分だけ免震棟外に出て、
ふくいちライブカメラの辺りから建屋を眺めることができる（20分以内）
または別の乗用車で建屋周辺を回ることができる

これで一人当たりの総被ばく線量は多く見積もっても約0.20mSv程度かと思います。

（私は8時間免震棟内に勤務してγ線線量値0.13～0.17mSvであった。

また指差し作業員はサーベイマップ上0.3mSv/hの地点に20分程度立ち続け、
加えて免震棟滞在約1時間で線量計の数値は0.13mSvであったという）

免震棟外から建屋を眺める2人には東電社員1人が付き添い、残る4人は免震棟内で待機する。
東電社員が付き添えば免震棟内の取材も可能でしょう。

●各社2人ずつとして計6人という数字の根拠

私が勤務していた時に免震棟一階で吉田所長が来客を迎える場面を見ましたが、それは5,6人の団体様だったと記憶しています。

また、私は毎日7,8人のチームで行動しておりました。

マイクロバスを降りて免震棟に入り、線量計を借りるあたりはこの人数で行動しています。

会社ごとに行動しますから7,8人がぞろぞろ固まって歩くのはいたって普通の光景であります。

また作業員の方が朝免震棟に来られる時は20人ほどが一斉に出入り口に入ることが何度も何度もありますが、出入り口管理の作業員は難なくこれを捌きます。

また特定場所の作業から帰られた建設系の会社の方が20人ほど、一日に何度も身体サーベイに並ぶこともありますが、これもごく日常的な光景です。

たとえばこのプランにおいて、具体的にどこにどう問題があるのか
東京電力さんには教えていただきたいと思います。

精査して問題のないプランができれば、

メディアの方々に抽選による順番で構わないのか記名式でアンケートしてもらいたいです。